

秋の沢旅 東北編③～会津駒ヶ岳 伊南川水系下ノ沢～

【報告者】H田

【日時】2019年9月7日 【天候】快晴

【参加者】H田 ほか 会員外2名（リーダー、Fさん）

《コースタイム》

7:02 竜門ノ滝駐車場→13:45 駒の小屋→14:02 会津駒ヶ岳→14:17 駒の小屋
→16:23 会津駒ヶ岳滝登山口→16:32 竜門ノ滝駐車場

《 報 告 》

3日目は、今回の沢旅のメインである、会津駒ヶ岳を頂きに持つ下ノ沢だ。

会津駒ヶ岳の山頂は是非とも訪れたい憧れのお山。前日、三岩岳に登れなかったのも、思いは余計に募る。

竜門ノ滝駐車場から少し歩いて入渓する。最初のゴロ歩きで、ラバーの沢靴が滑る岩と滑らない岩が混在していて見分けがつきにくく、多少不安がよぎった。

最初に現れる滝が竜門ノ滝で、2段になっている。とても登れないので左岸を巻く。その先はゴルジュになっていて、水勢はあるが難なく突破できた。遡行図を見ると小滝が連続していて面白そうに見えるが、歩いてみるとゴロの区間が意外と長く、多少飽きて来た頃、中間辺りの二俣に出たので休憩した。下ノ沢は日帰りでも遡行可能だが、長時間になるため一泊の記録もあり、その場合の幕営地がこの辺りだ。この時点で午前10時頃。目指す稜線は、まだかなり高い。

二俣を過ぎてからもしばらくゴロが続き、徐々に小滝が現れ始めた。大滝のようなものはないが、似たような滝が多い上に、登れない直瀑もあり、黒檜沢の方が遡行としては好きだなと思った。沢の面白さよりも、会津駒ヶ岳に登りたい気持ちが推進力になっていた。

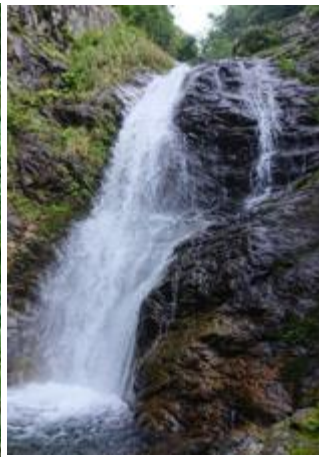
上部の二俣は、左俣に進んで駒ノ小屋を目指す。そこから先は源頭部らしい様子になった。流量が少なく、両脇の草丈も高いものが出て来たが、藪ではなく歩きやすかった。詰め上げの最後は、駒ノ小屋の手前の草原で、登山道に合流すると、長く続く木道に乗って山頂方面へ向かった。

駒ノ小屋が大きく近くに見えるところまで来ると、登山で訪れた方が多くいて賑わっていた。小屋のすぐそばにある駒ノ池は、青い空をそのまま水面に映した様子が想像以上に美しく、カメラを手にしばし見惚れた。花の多い時期は過ぎていたものの、辺りの草原や湿地に色とりどりの花が咲いていて、目を楽しませてくれる。

そこから山頂までは、片道15分ほどだった。周辺の山々がよく見える。沢登りで訪れるのも楽しいけれど、数日かけて縦走もしてみたいなとも思った。

離れがたい気持ちを抑えつつ、下山の登山道を歩く。泊まりの予定なのか、14時を過ぎているのに、登ってくる登山者とすれ違う。2日目、3日目と連日9時間超えの遡行となったが、不思議と疲れは感じなかった。

東北には、まだまだ行ってみたい沢がたくさんあるので、是非来年も訪れたいです。



下ノ沢

